

■ はじめに ～神様の御心を見極めるためには～

コミュニティの回復にずっと関わってこられている東京大学の先生の話で、色々なところで失敗事例は何ですか？とよく聞かれるのですが、先生は「一度行動を起こすとやり遂げる。諦めないからだ。」と話されていました。私達はどうでしょうか？自ら心に「こうする！」と決めた事を貫いて諦めずに行っているのでしょうか？色々な問題が起きた時、また目の前が真っ黒になるような出来事が起きた時、うまく行かない時、敵対が起きた時、否定された時どうするかをずっと学んできました。如何なる問題が人生に起きても大丈夫だと。でも毎週神様から学んでもいざ問題が起ると違う決断をして諦めようとしてしまいます。今ある社会問題の多くは人の心の中に「諦める」という心が訪れる事で引き起こされる場合が多いことが分かっています。聖書の中では諦める心に対して、「諦めるな！必ず夕があり朝がある！」という事を教えています。諦めずに貫いた人の人生と諦めてしまった人がどうなったかという事を書き続けています。聖書というのは神の言葉です。しかしその神の言葉をどのように私たちに残したかという神の言葉が人に与えられてその人がその言葉をどう用いたかということが書かれています。ですから、一人一人の生き様が出てきます。私たちが神様の御心を願う時、どのように判断するかと言えば神様から与えられた志をどんな人がどうやって解決したかを見れば神の御心がどうであるかが分かるようになっていきます。今日は私たちが神様の御心を見極めるためにはどうしたら良いのかを考えていきましょう。

■ 男性と女性の役割（補い合う）

男女の役割の中でとても大事な事は、私たちはいつも補いあうという事です。なぜなら、神様は最初に男をつくられたが神様の計画で一人は良くない。人間の弱さというのは補う、支えが必要であるという大前提がありました。この世の社会ではリーダーが上でそれを支えるフォロワーが下である価値観があります。ですが聖書の中では役割なのでそういうことはありません。それぞれの役割は、神様がその人その人が地を治めさせるために与えられた賜物であります。ですからどんな役割であってもそれは素晴らしいのです。聖書では体の中でことさらに必要でないと思われる部位が大事であると表現されています。神様の目線とは私達の目線と全然違うという事があります。今日の聖書箇所は、男女を指摘しているものではなく、お互いが補いあう時に、問題となる男女の弱さを伝えています。

■ 男性の役割

I テモテ『2:8 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。』「きよい手を上げて祈る」の意味は、自分より上の存在があることを認識することが大切である為です。メンツ・虚栄心・優越感・劣等感…、正しい判断や行動的を外してしまう持論に対して手を挙げ「Hold up」するのです。そうすることで降参し全てを神様に委ねるのです。持論で行い続ける人は世の中でも上手く行きません、持論があると人からの助言を聞けません。聞く耳を持ちましょう。して、多くの情報を聞いた上で、神様に祈り、聴いたことを実行しましょう。

■ マルティン・ルター

ルターはローマ皇帝から追放され、何もかも失いました。しかし、彼はどんな状態になっても祈り続けました。（ルターの祈り）「服を作るのが仕立て屋の仕事あり、靴を直すのが靴屋の仕事であるように、祈ることはクリスチアンの仕事である。」「祈りはとりなしによって活発され、懇願によって差し迫ったものとなり、感謝によって喜ばしい神に受け入れられる祈りとなる。力強くかつ受容的な態度で祈ることによって私たちは願うものを確かに受けるのである。」

だから特に男性は祈らないといけません。クリスチアンの男性は、問題が起こったときに手を上げて祈りましょう。祈らない男は死んでいきます。男は、プライドは高いが自信がありません。祈りは、クリスチアンの男性にとって生死にかかわるものです。

■ 女性の役割

I テモテ『2:9 同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪形とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、2:10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行いを自分の飾りとしなさい。2:11 女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。』

「良い行いを自分の飾り」とは「飾り」＝「コスメティクス」：回復させようとする事です。そして「教える」ではなく、「支える」（その人が良い決断を選べるように）ことです。

『2:15 しかし、女が慎みをもって、信仰と愛と聖さとを保つなら、子を産むことによって救われます。』

男性が手を挙げて祈るから、女性は男性がそうできるように信仰と聖さを保つことが大切になります。それは救いと命をもたらす力となります。

そして、箴言 11:22 『美しいが、たしなみのない女は、金の輪が豚の鼻にあるようだ。』

外側をいくら着飾っても、内側が整えられてないのでは意味がありません。外側ではなくまず内側を整えましょう。特に女性の問題の多くは会話にあります。記憶と悪い会話をしてはいないでしょうか。女性は既に祈っていますが、祈りを変えなければなりません。

■ 諦めない心

誰でも立派な仕事出来るひとはいません。「失敗は諦めた途端に起こるのです。私たちが気を付けなければいけない事は、諦めを正当化するものです。それは怒りです。諦めを正当化するもの＝怒り（メンツ・虚栄心・優越感・劣等感）を内に秘めていないか自分の心を確認しましょう。

『人の怒りは、神の義を実現するものではありません。ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植え付けられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。』 ヤコブ 1:20-21

■ さいごに…

与えられた最初の志に対して、聖書の観点から正しい目線を見続けることができているでしょうか？役割を持っている人がお互いに必要だと思わないといけません。聖書ではもともと支配者は神様です。神様が支配する中で、隣の人々が手を取って助け合っているわけなのでお互いの必要、隣の人を自らより優れたものとして思うことは良いことです感情的になって怒る行動も逃げです。言葉で会話していても成り立たないから武力でやってしまうということも逃げです自分で飾るのではなく、自分の生き方をみて、人から飾られるような生き方に変えられるように祈りましょう。そして男性が持論を捨て神様にきよい手を上げて祈りを捧げることができるように、また女性が不要な言葉を制し、励ましと良い選択を選べるように祈り決断し新たな一歩を踏み出しましょう。